

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4071800314		
法人名	社会福祉法人 芳寿会		
事業所名	ふれあいセンター 菰田		
所在地	福岡県飯塚市菰田142番地1		
	TEL 0948-29-4040	FAX 0948-29-4080	

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成21年9月14日	評価確定日	平成21年9月29日

【情報提供項目より】(平成21年 9月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 12年4月 1 日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9 人, 非常勤 人, 常勤換算 6.5 人	

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階 ～ 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000円(トイレ付き) 18,000円(トイレなし)	その他の経費(月額)	5,500円 光熱費 (7・8・9・12・1・2月は6,500円)
敷 金	○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) Ⓢ	有りの場合 償却の有無	Ⓢ
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	1日あたり1,000円		

(4)利用者の概要(9 月 1 日現在)

登録人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	5	要介護2	1		
要介護3	1	要介護4	1		
要介護5	1	要支援2			
年齢	平均 83.8 歳	最低 71 歳	最高 93 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	鰺坂医院 広畑クリニック アイ歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ふれあいセンター菰田は、多様な介護サービスを提供している法人敷地内にある1ユニットのグループホームである。近隣に小・中学校、短期大学があり、運動会の見学や総合学習や実習の受け入れ等で交流している。法人主催の夏祭りや介護教室を地域に案内し、今年の夏まつりはこども会の参加もありおおいに賑わったが、入居者が浴衣姿でしゃもじを打ち鳴らしながらどんたく踊りを披露し、拍手喝采を受けた。参加した家族から「あんな表情を見たのは初めて」と驚愕の感想もあり、入居者の今の力を活かしたいと隣接するディサービスの場所やグッズを活用して、秋の運動会を計画している。ホームの基本理念である「地域との交流を図り、家庭的雰囲気を保ちながら、寄り添い共感しあい今日一日を大切に地域と共に暮らしの流れをつなぐケアに努めます」をまさに具現化している。日々の生活に、広い居間で朝の体操やアクティビティ、個別機能訓練、ホーム周辺の散歩、毎月の外出で身体を動かすことを組み入れ、家族会や運営推進会議で家族の意見を伺う機会を設けながら、入居者と家族との関係を大切にするケアを実践している。運営推進会議を通じていきいきサロン等地域行事参加等でホームの周知は促進しつつあるが、今回の大雨の際、ホームが小高い丘に位置することから地域同業者に避難場所として指定されたこともあり、今後はホームの機能を地域に還元することを踏まえた地域密着型サービスの拠点づくりが期待できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価に沿って、運営規程に地域密着型サービスの方針を明記し、個別サービスを実践するために週間サービス表の活用やモニタリング結果を活用した担当者会議の開催、終末期ケアの取り組みとして職員の研修を予定している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	自己評価は職員全体で取り組んでいる。各自で書き込み、管理者がとりまとめをしている。
	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
重点項目③	運営推進会議実施要綱を整備し、地域包括支援センター職員、民生員や自治会会長や家族の出席で、2ヶ月毎に開催している。地域包括支援センター職員が、新型インフルエンザの情報や対応について話している。輪番で出席をお願いしている家族から、重度化した場合はホームから退去になるのかなどの質問があり、柔軟な対応をすることを回答している。ホーム行事や運営状況、前回の外部評価結果の報告した会議録を整備し、毎回廊下に掲示している。今回、民生員からいきいきサロンの案内があり参加している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
重点項目④	月末に各入居者毎にホームでの暮らしぶりや心身の状況、医療受診状況、預かり金のお納めのお知らせしたり、3ヶ月毎に発行している手書きの「ふれあいだより」は、3ヶ月の行事報告や誕生会の様子、外出先でのスナップの掲載、行事の案内を掲載して。定期健康診断は行政が実施している健康診査を受けている。職員の異動は家族会等で随時報告している。預かり金は出納帳を整備し、家族の確認印がある。成年後見制度や地域福祉権利擁護事業に関するパンフレットを整備している。日常生活自立支援事業を活用している入居者があり、円滑な利用を支援したり、家族に成年後見制度についても説明している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地区自治会に加入しているので、市報や地域の情報が記載された回覧板が回ってくる。小学校の運動会の案内や総合学習で来訪した中学生のお礼状を廊下に掲示している。運営法人で開催している恒例の夏祭りには入居者の家族や子供会、地域の方々等多数の参加者があった。入居者家族や地域の方々に呼びかけ、年1回介護教室を開催している。また、運営推進会議参加者からのお誘いで地域で開催されているいきいきサロンに参加している。

2. 評価報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの基本理念である「地域との交流を図り、家庭的雰囲気を保ちながら、寄り添い共感しあい今日一日を大切に地域と共に暮らしの流れをつなぐケアに努めます」を玄関の廊下や事務所に掲示し、運営規程に地域密着型サービスの役割を明確に記載している。	○	入居契約書や重要事項説明書に「地域との交流の下で」を明記することで、さらなる地域との交流の促進を期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所に基本理念を掲示し、毎朝の申し送り時に復唱している。管理者はミーティング等機会あるごとに、理念の「寄り添い共感しあい」を具体的なケアに活かすように話している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区自治会に加入しているので、市報や地域等の情報が記載された回覧板が回ってくる。小学校の運動会の案内や総合学習で来訪した中学生のお礼状を廊下に掲示している。運営法人で開催している恒例の夏祭りには入居者の家族や子供会、地域の方々等多数の参加者があった。入居者家族や地域の方々に呼びかけ、年1回介護教室を開催している。また、運営推進会議参加者からのお誘いで地域で開催されているいきいきサロンに参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全体で取り組んでいる。各自で書き込み、管理者がとりまとめをしている。前回の外部評価に沿って、運営規程に地域密着型サービスの方針を明記し、個別サービスを実践するために週間サービス表の活用やモニタリングを活用した担当者会議の開催、終末期ケアの取組みとして職員の研修を予定している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議実施要綱を整備し、地域包括支援センター職員、民生員や自治会会長や家族の出席で、2ヶ月毎に開催している。地域包括支援センター職員が、新型インフルエンザの情報や対応について話している。輪番で出席をお願いしている家族から、重度化した場合はホームから退去になるのかなどの質問があり、柔軟な対応をすることを回答している。ホーム行事や運営状況、前回の外部評価結果の報告した介護録を整備し、毎回廊下に掲示している。今回、民生員からいきいきサロンの案内があり参加している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が元行政職員であったことから、市担当者と情報交換や連携がしやすい。市から派遣されている介護相談員の意見をホームの運営に活かしている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	成年後見制度に関する研修会に参加し、成年後見制度や地域福祉権利擁護事業に関するパンフレットを整備している。日常生活自立支援事業を活用している入居者があり、円滑な利用を支援したり、家族に成年後見制度についても説明している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月末に各入居者毎にホームでの暮らしぶりや心身の状況、医療受診状況、預かり金の出納をお知らせしたり、3ヶ月毎に発行している手書きの「ふれあいだより」は、3ヶ月の行事報告や誕生会の様子、外出先でのスナップの掲載、行事の案内を掲載して。行政が行っている健康診査を受けている。職員の異動は家族会等で随時報告している。預かり金はお納帳を整備し、家族の確認印がある。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情申し立て受付先を明記し、ホームの苦情受付・解決責任者や第三者委員名、苦情解決の仕組みを記載した書面を整備したり、玄関に意見箱を設置している。年2回家族の交流を兼ねた家族会の開催で、意見を伺う機会を設けている。運営推進会議で家族から職員の言葉遣いに対する意見があり、管理者は職員教育として言葉遣いや接する態度等を指導している。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の適性や経験等に配慮しながら、同一法人内の異動は行っている。隣接するデイサービスの行事やレクリエーション等の参加で交流が多く、異動のダメージを防いでいる。勤務体制はできるだけ本人の希望を取り入れ、職員の離職を防いでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	職員採用はハローワークを活用している。お年寄りや介護が好きであることやチームケアに向く人柄等を考慮して、採用している。再雇用制度で看護師を雇用している。雇用契約書・服務規程等は整備され、年次有給休暇の取得や健康診断を支援している。職員は入居者の状況に応じて休息している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	地域内の同業者と合同で人権学習を実施したり、身体拘束禁止の外部研修に参加している。身体拘束禁止のマニュアルや高齢者虐待防止マニュアルを整備し、ミーティング等、機会あるごとに入居者や高齢者に対する人権教育を行っている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	福岡県高齢者グループホーム協議会やFブロックで開催する新任・現任研修を組み入れた年間研修計画を作成し、職員の研修参加を促している。参加した研修内容は、職員会議や回覧で全職員に周知している。職員の悩み等は管理者が対応している。	○	実施している新任研修や業務内容を組み入れ、新任研修計画を作成されてはいかがでしょうか。また、主催者名を研修計画に記載するのではなく、成年後見制度、身体拘束高齢者虐待防止、人権、プライバシーの保護、感染症や食中毒防止等、評価項目に記載された研修名を組み入れた年間研修計画の検討もお願いしたい。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県高齢者グループホーム協議会に加入し、研修会や交流に取り組んでいる。また、地域同業者管理者等が相互の運営推進会議に参加し、意見交換等でサービスの向上に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	自宅訪問や家族、居宅介護支援事業者から情報を得ながら、入居相談から入居に至るまで一環して管理者が対応している。介護休暇を活用し、家族を入居させた遠方の家族もある。入居の相談を受けた時点で、同法人のデイサービスの利用を勧め馴染みの関係ができてから、ホームの利用を開始していただくケースが多く、入居者が安心感を持って生活できるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の調理の手際の良さや味つけ等、入居者に教わる事が多く、入居者の「ありがとう」や「良かった」との声かけがうれしいと職員は話している。職員が始めて聞く歌があったり、入居者に振り付けを習った踊りを入居者と職員が一体となって夏祭りで披露している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活暦や職歴等を基本情報シートに整備し、生活状況調査票や長谷川式スケール、アセスメント表で心身の状況を把握している。管理者が入居相談から入居に至るまで係わったり、担当職員が一人ひとりの希望や意向、言葉に表せない思いを把握している。週間サービス計画表を活用し、希望や意向に沿ったアクティビティを支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族の意向をふまえ、担当職員、介護計画作成担当者、管理者が担当者会議で介護計画を作成している。入居者や家族に計画を説明し了解を得て、全職員に回覧し計画を共有している。日々の気づきは連絡ノートや職員会議で共有し、介護計画に活かしている。	○	担当者会議様式の本人・家族の要望を検討する項目や、モニタリングシートのサービスに対する利用者・家族の見解の活用で、さらなる利用者本位の介護計画作成を期待します。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々のケア内容や入居者の状況を毎月モニタリングし、評価している。3ヶ月毎や状況に応じた再アセスメントや家族との話し合いで、随時介護計画を見直している。見直した計画は家族の了解を得ている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期受診同行は家族にお願いしているが、入居者の状況に応じて受診や一時帰宅を支援している。隣接するディサービスの行事に参加したり、機能訓練機器やグッズの活用、ディサービス浴槽の活用で温泉気分を味わっている。今夏の花火大会は同敷地内の有料老人ホームの入居者と屋上から見物している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や協力医療機関の定期受診は家族に同行をお願いしているが、バイタル表等の記録を家族に持参していただき、家族から得た受診内容や投薬等の情報を記録している。受診状況は毎月の報告書で家族に報告している。入居者の状況に応じて、同敷地内にある特定施設の嘱託医に相談したり、月1回は訪問歯科診療を受けている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合に対応にかかる指針、同意書、意向確認書を整備し、入居時に意向確認書を取り交わしている。運営推進会議で家族から重度化した場合の退去について質問があり、今後はターミナル研修を実施し職員の意識の統一を図る予定である。	○	ターミナルケアの研修実施を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する規程や利用目的を廊下に掲示し、情報提供同意書を整備している。ホーム基本理念に入居者への尊厳を謳い、入居者に丁寧な対応を実施している。雇用契約書や服務規程に守秘義務を明記し、職員だけではなく実習生にも守秘義務を課している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	ホームの一日の流れを作成しているが、入居者の心身の状況に応じて、朝の体操やアクティビティ、お茶等を楽しんでいる。先ごろ、近隣のホテルでパンのバイキングを楽しんでいるが、体調等を考慮して参加していない入居者に居残りの寂しさが察せられる言動があり、今後は入居者の意向を確認したいと話している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全入居者で「いただきます」「ごちそうさまでした」の挨拶があり、和やかな雰囲気である。入居者の心身の状況に配慮し、テーブルや座る位置を決めている。手指の変形等で箸やスプーンがスムーズに使えない入居者もいるが、自力で食事ができるように職員が声かけをしている。配膳、下膳、片付け等をしている入居者もいる。通常は併設法人から食事が提供されるが、誕生日に希望メニューを取り入れたり、休日や日曜日はおやつづくりを楽しんでいる。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している	7～9月は毎日、10～6月は隔日の午後入浴を支援している。隣接するデイサービスの大浴場で温泉気分を味わっている。衣服を脱ぐことに激しい抵抗があった入居者も、穏やかな暮らしの中で自然に入浴できるようになっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや食事の準備、片付け、雑巾作り、「いただきます」の挨拶等を支援している。毎月の習字教室の作品や入居者が共同制作した大きな貼り絵が家族や訪問者の目に触れる廊下や居間に掲示され、入居者の楽しみや張り合いになっている。夏祭りに浴衣でどんたくの踊りを披露したり、誕生日には、お化粧をしておしゃれを楽しんでいる。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月間計画で外出をこころがけ、近隣のホテルでパンのバイキングを楽しんだり、季節毎に花見に出かけている。日ごろから、体調や天候を考慮して、屋外でのラジオ体操をしたりホーム周辺を散歩している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、玄関にセンサーを設置している。職員は入居者の傾向を十分に把握しているが、同敷地内のディサービス、特定施設等の職員に協力をお願いしている。時には地域の派出所の巡回もあり、近隣に連絡等の協力をお願いしている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災発生時のマニュアルを作成し、日中の避難訓練や夜間を想定した訓練も実施している。近隣に居住している職員が多く、協力体制が容易である。AEDを設置し、救急蘇生法等研修会に参加している。消火器を設置し、飲料水等を法人全体で備蓄している。	○	今回の大雨の際、地域内の同業者がホームを避難場所として指定されたこともあり、自然災害対応マニュアルの作成や職員会議で備蓄について話し合い、消費期限を考慮した目録の作成をお願いしたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の厨房で摂取カロリーや栄養バランスを考慮した食事の提供がある。入居者毎に水分・食事摂取量を把握している。入居者の嚥下・咀嚼能力に応じた食事介助をしている。入居以前からの習慣で入居後も牛乳の宅配を受けている入居者もいる。毎月、体重を測定し、体調の変化に気付くように注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	多様な介護サービスを提供している法人敷地にグループホームがあるため、訪問者が分かり易いように、玄関にホームの看板を掲示している。玄関周りに花を植え、玄関のくつ箱の上に季節の花をさりげなく飾っている。全館バリアフリー構造で、居間・事務所を中心に回廊があり、食堂や居室、トイレ、浴室が並んでいる。隣接するディサービスの間の中庭には、樹木が植えられ、イスやテーブルが置かれ、昼食の場になることもある。高窓から自然な明かりが差し込む居間はイスやテーブルがおかれ、体操・アクティビティ、お茶を気に入った場所で楽しんでいる。畳の間もあり、落ち着いた雰囲気である。トイレや浴室の音や臭いにも配慮されている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入り口に顔写真が掲示されている。畳敷の居室はADL等を考慮しベットを利用しているが、心身の状況で畳に寝ていただくこともある。居室にはタンスや日用品、習字等の自作品が掲示されたり、家族の写真等が掲示されている。トイレつきの居室もあり、排泄の自立を促している。窓の開閉で換気を促し、居室の清掃や整理を担当職員が支援している。		